

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	29 / 2011 / 47
タイトル	青森市新城でクロアゲハを確認
著者名	山道忠郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市新城でクロアゲハを確認

第14代 山道忠郎

今年(2011年)6月上旬、青森市の西部、新城在住の知人・鳴海恩喜さんから「自宅の庭でジャコウアゲハを見つけた」という電話があった。筆者の知識ではジャコウアゲハは暖地性のアゲハで日本海側の北限は秋田県能代付近である。これが本当であれば分布上貴重な記録であると話し、実物が手元にあるというので自宅に持参して貰った。

標本を見た瞬間、これまた大変な記録だと驚いた。クロアゲハである。新城の自宅の庭から冬場に居間に入れておいたミカン鉢に蛹が付いていて羽化したという。

データはつぎのようである。

クロアゲハ♀(春型、写真1と2)

確認年月日と場所： 2011年2月1日羽化、青森市新城平岡163-85。

確認者： 鳴海恩喜。 状況： 同地の庭にミカン(高さが100cm)の鉢植えがあり、それに付着していた。昨年(2010年)11月初め、他の鉢と一緒に居間に移動し管理していた。 標本管理： 現在は山道忠郎。



[写真1・2] 青森市新城で羽化したクロアゲハ♀。上・表面で下・裏面(スケールはミリメートル)。本種の♂♀の判定は、♂では後翅の前縁に白色横長の紋があり♀にはない。写真では、その部分に前翅が重なって隠されているが、実見するとその紋がないので♀。

考えられる食草はカラスザンショウ、サンショウ、移植した暖地性のカラタチ、ミカン類など。

真っ黒なアゲハは、ほかにオナガアゲハが分布するが、これは山地性で住宅地にはあまり飛来しない。これに対し、クロアゲハは平地・住宅地に飛来する習性があり、目撃あるいは確認したかたは是非とも、ご連絡をお願いしたい。」

貴重な標本を寄せられた鳴海恩喜、各種情報を頂いた室谷洋司の両氏に感謝する。

室谷洋司氏に、この分布記録に関連して詳細を聞いた。概要は、

「クロアゲハは暖地性のチョウで長い間、北限は秋田県。ところが1990年代の中ほど青森県西津軽郡深浦町で記録されその後の調査で、同地では暖地性のカラスザンショウを食草として越冬していることが分かった。その後、津軽地方の内陸部で度々飛来が見られていたが、近年北部の青森市でも目撃記録が出てきた。分布範囲が拡大しているのかどうか注意してきたが、2010年に夏型成虫の撮影を青森市高田で複数回成功。これらの個体が同地、あるいは周辺で越冬できるのかどうか食草のカラスザンショウなどの分布調査を続けてきた。

分布とか生態は、多くのかたがたの目で確認することが大事である。クロアゲハは暖地では年3回以上の発生であるが、青森市周辺に定着しているとすれば、春型は5月下旬～6月、夏型は8月中旬～9月の年2回、羽化し飛翔するのが見られるだろう。青森県内で